

	読み札作品	読み方	解 説
あ	新しく 未来をつむぐ <b>結城市役所</b>	あたらしく みらいをつむぐ ゆうきしやくしょ	令和2年11月24日に開庁した5階建ての庁舎です。結城紬の反物を干している場面をイメージした優しい曲線の大屋根や見世蔵をイメージした外壁など、シンプルな形状の中にも結城らしいデザインを取り入れています。
い	生きがいと 笑顔が集う <b>公民館</b>	いきがいと えがおがつどう こうみんかん	平成30年に新設された結城市立公民館は、市民の生涯学習の場として各種講座が開かれるほか、サークル活動などで多くの市民が生き生きと活動をしています。
う	美しき 四季の移ろい <b>与謝蕪村</b>	うつくしき しきのうつろい よさぶそん	江戸時代を代表する俳人です。1742年（寛保2年）27歳の時、下総国結城（現在の結城市）の砂岡雁岩のもとを訪れ、弘経寺を拠点として約10年間結城地方に滞在しました。滞在期間中、市内各地で様々な句を詠んだり、襷絵を残したりしています。
え	駅前に みんな集まる 憩いの <b>図書館</b>	えきまえに みんなあつまる いこいのとしょかん	ゆうき図書館は、平成16年5月に開館しました。名誉館長である結城市出身の詩人、新川和江さんから寄贈された詩のコレクションを所蔵しています。
お	おいしいよ 夏のごちそう <b>とうもろこし</b>	おいしいよ なつのごちそう とうもろこし	茨城県はとうもろこしの生産量が全国第3位の産地です。その中でも特に結城市は盛んで、夏にはおいしいとうもろこしが、スーパーマーケットや農産物直売所で購入することができます。
か	神として 水野勝成をまつる <b>聰敏神社</b>	かみとして みずのかつなりをまつる そうびんじんじや	中世の結城家、江戸時代の水野家の居城となった結城城跡の一角に聡敏神社があり、水野家の初代当主勝成が神としてまつられています。
き	鬼怒川の 夜空に蛍 <b>ふれあい広場</b>	きぬがわの よぞらにほたる ふれあいひろば	水と緑と花をテーマにしたふれあい広場は、中の下水道浄化センターの隣にあります。夏には水質保全の推進とPRのために1000匹の蛍を放し夕涼み会を催しています。
く	くれないの 夕日に映える <b>結城駅</b>	くれないの ゆうひにはえる ゆうきえき	結城駅は、水戸線の駅としては珍しい橋上駅のつくりとなっています。駅内にある南北自由通路は「友愛メルヘン橋」の愛称が付けられていて、平成元年に市民の声を元に作られました。
け	境内に 満開に咲く <b>東持寺の梅</b>	けいだいに まんかいにさく とうじじのうめ	上山川にある東持寺は、鎌倉時代に山川氏によって建てられた中世武家屋敷の跡であり、周囲に土塁と堀が巡らされています。境内にはたくさんの梅の木が植えられ、春には梅の香りが漂い、「梅寺」の愛称で親しまれています。
こ	この自然 未来に残そう <b>健康の森</b>	このしぜん みらいにのこそう けんこうのもり	結城市健康の森は、結城里山の会が中心となって整備をし、樹木や希少生物、群生植物を保存しながら、定期的に自然観察や野鳥観察、体験活動を開催しています。
さ	探そう お気に入りの星 <b>天体ドーム</b>	さがそう おきにいのほし てんたいどーむ	天体ドームは、結城市民情報センター4階に設置されています。国内最大級の人工ホタル石（フローライト）を使ったレンズで作られた望遠鏡があり、1年を通して、季節ごとに違った夜空を観ることができます。
し	茂る <b>桑</b> もりもり食べて <b>お蚕様</b>	しげるくわ もりもりたべて おかいこさま	桑は結城市の木に制定されています。結城紬の原料となる繭玉を作る蚕は、桑の葉をたくさん食べて上質の糸を作り出します。
す	姿変え 夜更けに現る <b>化け地蔵</b>	すがたかえ よふけにあらわる ばけじぞう	とっくりに豆腐を入れ、ざるに酒を入れて買っていくという結城の民話に出てくる化け地蔵は、弘経寺にまつられています。
せ	蝉時雨 <b>桐下駄</b> 履いて 城下町	せみしぐれ きりげたはいて じょうかまち	結城の桐下駄は江戸時代後期から盛んにつくられるようになり、日本3大産地として全国に知られています。また国の伝統工芸品や、結城市の結城ブランドに認定されています。
そ	空の下 庭に輝く <b>プチヒマワリ</b>	そらのした にわにかがやく ぶちひまわり	プチヒマワリは、結城ブランドとして知られているプチシリーズの一つです。ブーケやフラワーアレンジメントによく用いられます。

た	たそがれに 太鼓の音が鳴り響く <b>健田須賀神社</b>	たそがれに たいこのおとがなりひびく たけだすがじんじゃ	結城の総鎮守であり、明治3年に、別の場所にあった健田神社と今の場所にあった須賀神社が、合併してできた神社です。健田神社は、平安時代から続く格式の高い神社で、須賀神社は、鎌倉時代の初めに結城朝光によって建てられたと伝えられています。
ち	力強い 仁王が見守る <b>山川不動尊</b>	ちからづよい におうがみまもる やまかわふうどうそん	山川不動尊にある木造不動明王像は、京都の東寺にあったものを、平将門が守本尊として持ち帰ったものと伝えられています。毎月28日に開かれる縁日には、今でも多くの出店と人出でにぎわいます。
つ	追憶の 養蚕守る <b>大桑神社</b>	ついおくの ようさんまもる おおくわじんじゃ	大桑神社（結城市小森）は、古代に養蚕と織物の神様として祭られ、りっぱな彫刻が彫られた本殿と、推定樹齢400年余の大きな樺がそびえています。小森という地名は、「蚕守（かいこを守ること）」、「戦に備えて兵が籠もる」に由来すると伝わっています。
て	手を結び みんなに届け <b>結いのおと</b>	てをむすび みんなにとどけ ゆいのおと	結いのおとは、北部市街地の歴史ある見世蔵や酒蔵、寺院などの魅力ある建物を、ライブ会場として行われる音楽イベントです。
と	徒歩で巡る <b>七福神様</b> の お守りする街	とほでめぐる しちふくじんさんまの おまもりするまち	結城市では新年の福徳を祈るため、結城市ボランティアガイドの案内による「結城七福神めぐり」が行われています。結城七福神／大黒天・布袋尊（大輪寺）・毘沙門天（毘沙門堂）・恵比寿天（恵比寿神社）・寿老人（金光寺）・福祿寿（乗国寺）・弁財天（市杵島神社）
な	眺め入る 白壁きれいな <b>築地塀</b>	ながめいる しらかべきれいな ついじべい	日高川通り（旧市役所）、御幸通り（看護学校）、玉岡通り（結城小学校）には、白い築地塀と近くを流れる川などが整備され、市民の憩いの場として親しまれています。
に	にぎやかに 楽しく披露 <b>アクロス</b> で	にぎやかに たのしくひろう あくろすで	平成3年に開館した結城市民文化センターアクロスは、結城市民の交流の場や、文化・芸術の発信基地として、結城市内外から多くの人々が訪れています。
ぬ	抜きつ抜かれつ ロードレースだ <b>シルクカップ</b>	ぬきつぬかれつ ろーどれーすだ しるくかっぷ	平成13年2月から始まった結城シルクカップロードレース大会は、鹿窪運動公園をスタート・ゴールとして開催され、小学生からお年寄りまで多くの方に親しまれているマラソン大会です。
ね	根を張って ぐんぐん育て おいしい <b>白菜</b>	ねをはって ぐんぐんそだて おいしいはくさい	茨城県は白菜の生産量が日本一です。結城市でも四地区の豊かな土地を利用して広く栽培されており、結城ブランドに認定された品もあります。
の	のどかなる 我が街 <b>結城廃寺</b> 偉大なり	のどかなる わがまちゆうきはいいじ くだいなり	結城廃寺は、上山川の地に、奈良時代の初めの西暦700年代前半に建てられ、室町時代の中頃まで続いた寺院跡です。発掘調査によって、塔跡など建物の跡や、奈良の法隆寺とのつながりを示す貴重な埴仏（小型の仏像）なども見つかかり、国の史跡に指定されました。
は	春の声 桜に誘われ <b>水辺公園</b>	はるのこえ さくらにさそわれ みずべこうえん	水辺公園は、結城城の外堀の役割をしていた低湿地の一部に造られました。公園の周辺には、春には桜が咲き誇り、また梅雨時には花菖蒲が咲くなど、市民の憩いの場として親しまれています。
ひ	<b>ひな人形</b> 蔵の街並み 見つめてる	ひなにぎょう くらのみちなみ みつめてる	毎年2～3月にかけて開催される「結城のひな祭り」では、北部市街地の見世蔵や公共施設などにたくさんのひな人形が飾られ、なかには珍しいひな人形を見ることができます。
ふ	笛の音に 合わせて動く <b>大みこし</b>	ふえのねに あわせてうごく おおみこし	7月に開催される結城の夏祭りでは、笛や太鼓のお囃子の音色に合わせて、勇壮な大神輿が町中を練り歩き、人々の歓声が響き渡ります。
へ	平和を願い 大岩砕いた <b>源翁和尚</b>	へいわをねがい おおいわくだいた げんのうおしょう	源翁（げんのう）和尚とは、栃木県的那須で悪い煙を吹き上げて人や動物たちに害を与えていた「殺生石」を二つに割り、中にいた「九尾の狐」を成仏させた人物です。このため、大きな金槌（かなづち）を「げんのう」と呼ぶようになったといわれています。
ほ	本場結城の <b>かんぴょう</b> 料理 どれもおいしい	ほんばゆうきのかんぴょうりょうり どれもおいしい	かんぴょうは、食物繊維を多く含む健康食材です。巻き寿司の具材や煮物、和え物などいろいろな料理に使われます。以前は、結城市でもかんぴょうの原材料となる夕顔を栽培している畑を見かけました。
ま	舞い踊れ <b>太々神楽</b> 諏訪神社	まいおどれ だいだいかぐら すわじんじゃ	諏訪神社に伝わる太々神楽は、江戸時代から伝承されていますが、その起源は、平安時代に平将門の乱を鎮めた藤原秀郷が、将門を攻める際に行った必勝祈願といわれ、茨城県無形民俗文化財に指定されています。毎年4月に演じられる祭礼の日には多くの人でにぎわいます。

み	三日月橋 噂の伝説 埋蔵金	みかづきばし うわさのでんせつ まいぞうきん	結城家17代晴朝が隠したとされる「結城家埋蔵金」を掘り起こそうと、江戸時代には結城城内の各所が掘られました。三日月橋が架かるくぼ地は、大正時代に掘られた跡ですが、今だに埋蔵金は見つかっていません。
む	紫の 宝石実る <b>ぶどう畑</b>	むらさきの ほうせきみのる ぶどうばたけ	結城市には、上山川地区を中心に、約8ヘクタールのぶどう農園が広がっています。大変甘い巨峰やシャインマスカットといった人気の品種も作られています。
め	恵まれた 田圃に注がれる水 <b>吉田用水</b>	めぐまれた でんえんにそそがれるみず よしだようすい	吉田用水は、江戸時代に結城台地の新田開発のために掘られた用水で、現在の下野市本吉田付近の鬼怒川から分水し、結城市、八千代町を通して、坂東市と常総市にまたがる菅生（すがお）沼に注いでおり、1727年に開通しました。
も	もう食べた <b>桑の実ジャム</b> は 絶品です	もうたべた くわのみじゃむは ぜっぴんです	桑の実ジャムは、結城で収穫した桑の実を一粒一粒厳選し、自然の風味そのままに仕上げた健康に良い無添加ジャムです。結城観光物産館で購入することができます。
や	厄祓い みんなに配った <b>ゆで饅頭</b>	やくばらい みんなにくばった ゆでまんじゅう	ゆで饅頭は、江戸末期にはやり病が流行したとき、当時の殿様が病払いに民衆にふるまったのが始まりと言われています。いまでも夏祭りにお供えして無病息災と五穀豊穡を願っています。
ゆ	結城市の 食べる幸せ <b>野菜町</b>	ゆうきしの たべるしあわせ やさいまち	結城市では、白菜やトマトなど様々な野菜の生産が盛んで、結城ブランドに認定された品もあります。他にも、レタスや大根、なす、かぼちゃなど鬼怒川流域の肥沃な大地を活かし、おいしい野菜が作られています。
よ	嫁入り道具 祖母にもらった <b>桐たんす</b>	よめいりどうぐ そぼにもらった きりたんす	桐たんすは、削り直しなどをすることで、新品同様に生まれ変わり、長く使い続けることができる結城の特産品です。また、結城市は桐たんすの全国8大生産地として知られ、結城が城下町になったころから、けやきに代わり、桐で小袖たんすが造られるようになりました。
ら	ランドマーク 城下に薫る <b>ユリ</b> の花	らんどまーく じょうかにかおる ゆりのはな	結城市の花として昭和55年11月11日に制定されました。その清楚さは「紬の里」結城市に独特の風情をかもし出し、花姿（はなすがた）の謙虚さは結城市を象徴してくれるということから選ばれました。
り	凛々しき武将 剣に輝く <b>結城朝光</b>	りりしきぶしょう けんにかがやく ゆうきともみつ	小山政光の三男として生まれた朝光は、野木宮合戦の恩賞として源頼朝より結城郡を与えられて結城家を興し、以来18代秀康まで約400年に渡ってこの地を治めました。
る	瑠璃色に <b>藍染め</b> 染まる きれいだな	るりいろに あいぞめそまる きれいだな	藍染めとは、「藍」という植物を用いた染色技法のことです。結城紬は、この「藍」を使ってたき染めという技法は用い、深い青色を染め込み、着物の上品さを際立たせています。
れ	歴代の 城主が眠る <b>結城家御廟</b>	れきだいの じょうしゅがねむる ゆうきげびょう	慈眼院結城家御廟は、初代朝光から16代政勝まで霊をまつた場所で、花崗岩製の五輪塔の20基が並んでいます。もとは結城城内にあったものを、政勝が慈眼院を建てて移したものです。
ろ	老中の <b>水野の墓</b> が 山川に	ろうじゅうの みずのはかが やまかわに	山川水野家の初代忠元（ただもと）は、大坂夏の陣の功績により、山川の地に三万石を与えられて大名となりました。忠元の死後、水野家の菩提寺として万松寺（ばんしょうじ：江戸時代末期に焼失）が建てられ、以後、11代忠邦まで歴代当主の墓が山川に建てられました。
わ	和の文化 <b>結城紬</b> で 街巡り	わのぶんか ゆうきつむぎで まちめぐり	結城紬は、わが国最古の歴史ある絹織物です。奈良時代に常陸国の特産物として朝廷に献上した「あしぎぬ」が紬の原形といわれます。昭和31年に国の重要無形文化財（平織）に指定され、平成22年にはユネスコ無形文化遺産に登録されました。
を	結城家の 歴史をつむぐ <b>御手杵の檜</b>	ゆうきけの れきしをつむぐ おてぎねのやり	「天下三名檜」の一つである御手杵（おてぎね）の檜は、結城家17代晴朝（はるとも）が、駿河国嶋田（静岡県島田市）の職人に作らせたと伝わる檜です。東京大空襲の際に焼失しましたが、現在は復元した檜を結城蔵美館に展示しています。
ん	大きな体と 優しい心の <b>一ツ木どん</b>	おおきなからだと やさしいこころの ひとつぎどん	一ツ木どんは、結城の民話に出てくる力持ちの男の人です。困っている人を助け、多くの人に愛されました。